

最優秀賞

t v k かながわ M I R R A I 賞

あたりまえ

横浜市立篠原中学校

二年 矢部 宮 瑚

私はデュアン症候群を患っている。デュアン症候群は、約千人に一人の頻度で発症する目の病気で、私の場合右目を上手く動かすことができない。また、時々発作のようなものが起こってしまうため、皆と同じように遊んだり、皆とスポーツを楽しむことができない時がある。これが私のあたりまえ。

世界には、多くの人がいてひとり一人違ったあたりまえがある。私のように病気と戦っていく日々があたりまえの人。目が見えないのがあたりまえの人。耳が聞こえないのがあたりまえの人。本当に沢山のあたりまえがある。しかし、皆と自分のあたりまえが違う時、人に責められてしまうことがある。私もそうだった。小学生の頃、皆と目が違うというだけの理

由で「気持ち悪い。」などと毎日言われた。本当につらく悲しい毎日だった。ところが、ある日友人のMちゃんに自分の目は皆と違うということを告白するとMちゃんは優しく、「その目も宮瑚ちゃんの大切な個性だよ！だから大丈夫！」と言ってくれたのだった。その時は本当に嬉しくて嬉しくて涙がこぼれ落ちそうになった。さらに中学校の授業でドッジボールをしていたときに発作が起こってしまった。そんな時Mちゃんは「向こうに行こう。」と、すぐに声をかけてくれたのだ。これは、私自身のあたりまえを知っているMちゃんだけができる行動だ。だが、中学一年生の後期、発作が多くなり早退してしまうことが増えてしまった頃、クラスの友人達が帰る支度を手伝ってくれたり、「一緒に保健室に行こう。」と声をかけたりしてくれたのだ。Mちゃん以外の人に自分自身を受け入れてくれる人や、自分のあたりまえを受け入れてくれる人がいなかったため、本当に嬉しかった。

私は将来、社会が沢山の色々なあたりまえであふれていってほしいと思う。誰にも否定されることのない自分だけのあたりまえで社会があふれた時、社会や世界は今よりもずっと、過ごしやすい場所になると思う。そんな社会や世界にするためにはひとり一人が相手のあたりまえを認める心を持つことが大切だ。相手を認めるということはすぐにはできないことだが今の自分から一歩ふみだしてみれば世界は少し明るくなる。

世界が明るく過ごしやすい場所になっていくこと。これが私の夢だ。